

令和6年度 日本大学藤沢小学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

本校の教育活動の中で、豊かな知識（学力）、諦めない心（気力）、頑張れる体力を児童に身につけさせ、何事もくじけることなく、力強く、今後ますます複雑化するグローバルな社会で自分の考えをもって歩み続けることができる、生きる力(自主性と創造性)を持った心豊かな人間を育てることを目指す。

【本校の特徴】

学習においては、土台となる国語、算数、体育に力を入れ、基礎学力、基礎体力の育成を行う。宿泊行事（防災訓練1泊、林間学校2泊3日、スキー教室3泊4日）の実施や交通安全教室・防犯教室等の講演会により、生活習慣の確立と物事に対するやり抜く気力、児童相互の協力や思いやりの気持ち、自らを守ることへの意識を育てていく。

充実した環境を生かした教育（大学教員による特別授業、農場実習、中高との連携教育）を通し、日常で学んだことをより発展的な学びにつなげ、児童自身が将来に向けて考え、目標に向かって取り組む姿勢を身につけていく。今後の課題は、児童の「学力と体力の向上」、「自他の尊重の意識や他者への思いやりなどの涵養」を踏まえた6年間の安定した教育内容を作り上げること、また安定した児童の募集・確保を行うことである。

【令和6年度の重点目標】

- 1 基礎学力の育成
- 2 課外活動の充実（縦割りの班活動や各行事の見直し）
- 3 教員の授業力・クラス運営力の向上
- 4 児童確保のための募集活動

【令和6年度の自己点検・評価結果】

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度取組方策 (Action)
教育活動	基礎学力の育成	<p>朝学習（毎朝15分間）の取組や、日々の宿題を通し、学習習慣を身につけた。</p> <p>外部実力テスト（年2回）や検定（算数・漢字・英語）の実施をするに当たり、それぞれが目標を設定して取り組んだ。</p> <p>学習が遅れ気味の児童には、昼休みと放課後に個別指導を実施した。</p> <p>遊学タイム（放課後に教員と児童と一緒に学び、遊ぶ時間）において、学習サポートの時間を設け、大学生ボランティアに入ってもらったことで、児童たちがより質問をしやすい環境ができる場を確保した。</p> <p>6年生は8月から3月までの間に特別補</p>	A	<p>朝学習を継続する。</p> <p>外部テストの結果をふまえ、児童の学力の定着・向上につながるよう、各教科で検討を行う。</p> <p>遊学タイムでの学習サポートを継続する（大学生ボランティアも含む）。</p> <p>検定受験を継続する。</p> <p>学習が遅れ気味の児童に対するサポートを継続する。</p> <p>6年生への特別補習を実施する。</p> <p>保護者会や面談を通じて家庭での学習習慣の確立をお願いし、また保護者との情報共有を心掛ける。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度の取組方策 (Action)
		習を行った (全6回)。		
	気力・体力の育成	春の遠足 (林間学校に向けた体力づくり), 運動会, 林間学校 (清里高原2泊3日), 文化祭 (体育の演技発表・音楽発表・図工等作品の展示), スキー教室 (菅平2泊3日), 持久走記録会, 書き初め会等を行った。 行事を通し, 自己の目標をかなえられるように, 最後まで粘り強く取り組む姿勢をもたせ, 心身共に成長できるように考えて取り組んだ。 諸活動を円滑に計画・実施できるよう, 児童会をはじめ, 関連部署と連携をとった。	A	例年実施している行事を通し, 体力づくりだけではなく, 思いやりや協調性も育成できるよう, 学年ごと目標を決めて取り組む。 持久力を図る行事 (林間学校での登山・運動会・持久走記録会) を通し, 何事にも諦めず, 粘り強く取り組む姿勢を育成する。
	授業改善に向けた取組	授業は教員同士が適宜見合えるようにし, 授業についての情報交換を行いやすくした。 管理職も授業を適宜観察してその都度気になったことを伝えた。 学期ごとに教科で打ち合わせを行い, シラバス通りに進めているか確認をした。 中学入試に対応できるように, 進度や内容を含めて検討をした。 授業参観を年3回実施した。	A	引き続き授業は教員同士が適宜見合えるようにし, 情報交換を行い, よりよい授業に向け各教科で検討をする。 各教科で, 授業進度や取組内容についての打ち合わせを学期ごとに行う。 (特に試験範囲の打ち合わせはしっかり行う) 中学入試に対応できるよう個々の教員が授業のスキルアップを目指す。 授業参観を実施 (6月・11月・2月) する。
	学習サポートの継続	教科担当と担任が常に情報共有を行い, 児童の状況を把握し, 遊学タイム (学習サポート) への参加や昼休み・放課後の個別対応を実施した。	A	令和6年度同様の取組を実施する。 保護者とも情報を共有し, 学校と家庭の両方でサポートできる体制を作っていく (遊学タイムへの参加, 宿題の確認など)。
	防災安全に関する取組	避難訓練を実施 (4月・9月・1月) した。 防災宿泊訓練を実施 (3年生) した。 3年生において, 防災に関する調べ学習を実施した。	A	避難訓練の実施を継続する。 防災宿泊訓練を実施 (6月) する。
学校生活への配慮	良い人間関係の確立	委員会活動の取組として「ふわふわ言葉・ちくちく言葉について考える」取組を行った。 適宜, 「挨拶をしよう」「嫌な言葉掛けはしない」という声掛けを行った。 各学期の終業式において, 児童それぞれが活躍した取組を紹介・表彰し, お互いを尊重する態度を育んだ。 児童の人間関係や学級の状態を把握するために, 5月・11月に「子供の社会スキル横浜プログラム」及び本校で作成している	A	「ふわちく週間」(相手の気持ちを考えた言動をそれぞれが考える週間) を継続し, 引き続き言葉 (ふわふわ言葉・ちくちく言葉) について考える取組を行う。 様々な行事で発表や表彰をするなど, 個々の児童が活躍できる場面を作る。 特に低学年においては, 「友達の良いところ探し」をするなど日常的な活動においてよい人間関係が確立できるよう, 指導していく。 例年実施している「子供の社会スキル横浜プログラム」及び本校で作成している「友達との関わりについてのアンケート」を継続する。 児童のトラブル対応について, 引き続き教員が児童の話丁寧聞く対応をしていく。 6月の保護者会において, 保護者対象に「子供と寄り添う」をテーマに講演を

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度の取組方策 (Action)
		<p>「友達との関りについてのアンケート」を実施した。適宜声掛けや指導を行うことで、一人ひとりの児童が安心して学校生活を送ることができるように配慮した。</p> <p>児童間のトラブルの際、お互いがその後良い関係で過ごしていくことができるように、教員が話を聞く際、決めつけることなく児童の話を丁寧に聞いて対応した。</p> <p>6月の保護者会において外部講師を招き、「子供と寄り添う」をテーマに講演を実施した。</p> <p>6月には、4年生以上の児童を対象として、外部講師より情報モラル教室を実施し、友達とSNSやインターネット上で関わる際の留意点などについても学ぶ機会を設けた。</p>		<p>実施する。</p> <p>6月に実施している「情報モラル教室」を継続して実施する。</p>
	<p>清潔な環境の整備</p>	<p>昼食後の清掃時間において、児童と教員と一緒に清掃活動を実施した。特に、通年で6年生が低学年と一緒に掃除をすることで、用具の使い方などを低学年のうちに学ぶことができた。</p> <p>児童と教職員の清掃のほかに、清掃業者が入っているため、トイレや洗面台なども常に清潔で衛生的に保たれている。</p> <p>2・3年生が大学生と一緒に中庭と昇降口前の花壇の整備を行った。</p>	A	<p>校舎内外の清掃活動を、児童・教職員がともに行うことで、皆が過ごしやすい環境づくりを行う。</p> <p>児童の机、ロッカー、下駄箱等、適宜確認をし、整理整頓の指導を行う。</p> <p>トイレや洗面台の使用について、児童が日頃からきれいに使うよう、委員会活動等を通し、意識を高めていく。</p> <p>大学の協力もいただき、校内花壇の整備を継続して実施する。</p>
	<p>保護者対応</p>	<p>児童・保護者について旧担任から新担任に引継ぎを行った。</p> <p>担任だけでの対応にならないよう、学年主任、生活指導主任、管理職で情報共有をし、対応をした。</p> <p>教員を対象に、9月に「保護者との円滑なコミュニケーションについて」、12月には「ペップトーク研修」(ポジティブな言葉を使った激励の言葉掛けで児童の自己肯定感を高める)を実施した。</p>	A	<p>年度初めに担任・学年で丁寧な引継ぎを行う。</p> <p>必ず教員間で情報共有を行う。</p> <p>教員対象に研修会を実施する(年2回)。</p>
	<p>いじめ防止のための取組</p>	<p>日常的に友達の良いところ探しをすることで、お互いを尊重する姿勢を身につけられるよう取り組んだ。</p> <p>担任だけではなく教科担当教員にも児童の様子をよく見てもらい、担任と情報共有</p>	A	<p>日常的に「友達の良いところ探し」を継続して行う。</p> <p>いじめの早期発見のため、カウンセラーも含め教員間でこまめに情報共有を行う。</p> <p>児童間の人間関係を把握するための「友達との関わりについてのアンケート」、及び「子供の社会的スキル横浜プログラム」を継続して実施する。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度の取組方策 (Action)
		を行い、児童の変化については早い段階で把握できるようにした。		委員会活動を通して、児童が安全・安心して過ごせる取組を継続する。 (ふわちく週間やポスター掲示による啓発活動)
課外活動	異学年との交流	<p>「1年生を迎える会」、「6年生を送る会」の行事に取組んだ。</p> <p>縦割り活動の時間を設け、上級生の企画で全学年が楽しめる企画を実施した。</p> <p>令和6年度より縦割りランチ会を月1回行い、縦割りの班での交流の場を設けた。</p> <p>各行事では、上級生が下級生の面倒を見ながら一緒に班で行動する取組を行った(林間学校の飯盒炊飯や持久走記録会、スキー教室など)。</p> <p>遊学タイムで学習、野球、パズルゲーム、一輪車など、クラス学年を超えた友達と一緒に行うことが、上級生が下級生を見守る姿勢やお互いを認めあう心を育む一助となった。</p> <p>清掃活動を低学年と高学年で一緒に行った。</p>	B	<p>令和6年度に実施した行事の取組については継続して実施する。</p> <p>各行事を通じて、異学年交流の機会を増やす。</p> <p>令和6年度から始めた「縦割りランチ会」を継続する。</p> <p>クラブ活動においても、共通の興味を持つ異学年の児童で集まり、交流を図る。</p> <p>継続して低学年と高学年一緒に清掃活動を行う。</p> <p>遊学タイムに、異学年で交流ができるプログラムを増やしていく。</p>
	主体性・責任感育成	<p>委員会活動を通し、全校児童が安全で快適な学校生活をおくることができるようにするための取組を考え、学校生活のルールやマナーに関する啓発活動を行った。</p> <p>高学年は各行事の運営に加わり、与えられた役割に責任を持って取り組むことの大切さを学んでいる。また、その姿勢をお手本として、下の学年がその活躍を受け継いでいく流れができた。</p> <p>遊学タイムの学習サポートでは、児童本人が授業で理解ができなかった問題を持参して取り組むなど、各自が目標を持って取り組んだ。</p>	A	<p>児童から意見を収集する機会を設け、よりよい学校を目指し、児童が自発的な姿勢で取り組めるような委員会活動を行う。</p> <p>高学年については、各行事後に振り返りを行い、運営面において令和7年度にむけての引継ぎと、行事への取組姿勢を下級生に継承していく。</p>
	向上心・協調性育成	<p>運動会、林間学校、文化祭、スキー教室、書き初め会、持久走記録会の行事を通し、一人ひとりが目標を持って取り組み、達成感を得られるようなプログラムを考え、実施した。</p> <p>運動会では、白組・赤組に分かれて応援合戦を実施した。練習を重ねる中で、高学年を中心に学校全体が一体となった。低学年から高学年まで協調性を養う機会になった。</p>	A	<p>学級活動の中で、令和5年度のキャリアパスポートを利用し、児童それぞれが各行事に対して目標を立てて取り組むことができるようにする。</p> <p>行事については、学校が一体となって取り組むように継続していく。</p> <p>行事を通じて、児童が諦めない姿勢や粘り強く取り組む姿勢を身につけられるように企画をする。</p> <p>5年生対象の「いのちの大切さの教室」を実施する。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度の取組方策 (Action)
		<p>林間学校では、登山を通し仲間と共にやり抜く力や諦めない気持ちを育んだ。</p> <p>5年生を対象に、「いのちの大切さの教室」を実施した。</p>		
進路指導	<p>将来の夢の形成支援</p>	<p>進路希望調査を実施した。</p> <p>(4年及び5年は1月、6年は9月)</p> <p>日本大学生物資源科学部の教員や外部講師(講談師)による特別授業を行い、様々な職業について興味付けを行った(各学年2回/年)。</p> <p>年度始め・終わりに作成する「キャリアパスポート」を通し、自分自身の成長を振り返る場を設けた。</p> <p>日本大学の魅力を伝え、帰属意識を高めるために、始業式などに日本大学の理念に触れて話をした。</p> <p>5年生を対象に、卒業生(中学1年生)からの講演会を実施し、近い将来の自分について考える機会を設けた(3月)。</p>	B	<p>進路希望調査を実施(4年・5年・6年)する。</p> <p>特別授業の実施を継続する。</p> <p>キャリアパスポートの実施を継続する。</p> <p>5年生対象の卒業生講演会は、児童一人一人が進学・中学入試にむけての意識を高めているので継続をしていく。</p> <p>将来を考えるきっかけとして、保護者と児童を対象に日本大学医学部・生物資源科学部獣医学科・歯学部・松戸歯学部の説明会を中高と連携して実施する(9月予定)。</p>
	<p>中学入試に向けた取組</p>	<p>3年生以上で定期試験を実施した。学習習慣の確立のみならず、学習内容の理解度や定着度の確認、中学入試にむけて試験に慣れることにも役立った。</p> <p>全学年、年2回の外部模試(育伸社)を実施し、中学入試にむけた基礎学力の定着を図った。</p> <p>6年生は、受験生としての自身の立ち位置を知るために四谷大塚模試を実施した。</p> <p>各教科において、入試に対応した問題集を使用した。</p> <p>保護者対象に、四谷大塚の講師を招いて中学入試についての講演会や受験を終えた6年生の保護者による講演会を実施した。</p>	A	<p>個々の児童にあった進路を早期から検討できるように、担任が進路指導部と連携し、進路・進学・学習への取り組みについての話を4年生から始めていく。</p> <p>中学入試(日本大学藤沢中学校への進学も含め)に対応できる実力をつけられるように 適宜各教科で打ち合わせを行う。特に高学年については高い目標に向かって取り組むよう、指導をしていく。</p> <p>外部模試の実施を通し中学入試に対応できる力をつけるため、試験後には各教科で結果を検証し、都度対策を考え、その後の指導につなげていく。</p> <p>保護者対象の中学入試説明会・6年生の保護者による講演会については、今後も継続していく。</p>
	<p>日本大学藤沢中学校へ進学を希望する児童に向けた取組</p>	<p>4月の保護者会において、4年生以上を対象に日本大学藤沢中学校の説明会を実施した。</p> <p>日本大学藤沢中学校との連携として、4年生が中学校の体育祭に参加をする予定だったが、天候により、令和6年度は参加ができなかった。</p> <p>日本大学藤沢中学校に進学した後のイメ</p>	B	<p>4月の保護者会において、保護者を対象とした日本大学藤沢中学校説明会(希望者)を行う。</p> <p>5年生対象の卒業生の講演会において、日本大学藤沢中学校に進学し活躍をしている卒業生に講演をしてもらい、進学への意識を高めていく。</p> <p>各教科の授業において、日本大学藤沢中学校入試を意識した問題演習に取り組む。</p> <p>今後も日本大学藤沢中学校と連携し、体育祭や合唱コンクールへの参加、授業体験などの連携行事を継続する。これまでの取組に加えて、より中学校生活</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度の取組方策 (Action)
		ージを持つことと、進学への意識を高めるために、5年生を対象に中学の授業体験・学食体験や中学の合唱コンクールに参加をした。		をイメージできるよう同校と連携し、部活動体験を検討していく。
保健衛生	健康な生活に向けた取組	<p>「ほけんだより」の配布、保健室前のポスターの掲示を通し、適宜必要な情報提供や注意喚起を行った（インフルエンザが蔓延した時期も、本校において感染者はほぼでていない）。</p> <p>コロナ禍以降実施していた昼食時のアルコール消毒を10月末に廃止し、11月からは各自の判断でアルコールシートを持参するように変更した。</p> <p>健康診断、身体測定、色覚検査（1年生希望者）を実施した。</p>	A	<p>「ほけんだより」を適宜発行し、児童・保護者に必要な情報提供や注意喚起を行う。</p> <p>委員会活動（保健委員会）を通じ、手洗い・うがいの励行を行う。</p> <p>健康診断（4月）、身体測定（9月・2月）、色覚検査は継続して実施する。</p>
	安全確保に向けた取組	<p>校舎内での出会い頭の事故が起きないように、日頃から走らないように声掛けし、環境委員会がポスターを作成・掲示をした。</p> <p>教員対象にBLS・エピペン（救命救急講習）を行う予定だったが、台風直撃の予報が出ていたため中止した。</p> <p>休み時間（中休み・昼休み）中に教員による見守りを実施した。</p> <p>学期始めに登下校中の見守りをした。</p> <p>避難訓練を企画・実施した（年3回）。</p> <p>3年生において、非常時に備え防災宿泊訓練を実施した。</p> <p>入学後の1か月は、安全な登校をするための指導として下校時に学校から駅までの付き添いを行った。</p> <p>環境委員会が出会い頭の事故が起きないようにポスターを作成し啓発活動を行った。</p> <p>不審者侵入防止のため、守衛による来校者の確認を強化した。保護者には、必ず保護者証を持参するよう連絡した。</p>	B	<p>教員対象のBLS・エピペン講習がこの2年間実施できていないため、令和7年度はシミュレーション（実地訓練）を取り入れながら行う。</p> <p>休み時間の児童見守りを継続する。</p> <p>避難訓練を実施（地震：4月、1月 火災：9月）する。</p> <p>防災宿泊訓練を実施（3年生：6月）する。</p> <p>登下校におけるマナー向上のため、教員の見守りは学期始めだけではなく、児童の様子を見ながら適宜行う。</p> <p>公共交通機関での態度やマナーについて、児童一人一人が自覚をもって行うことができるよう、指導を徹底する。</p> <p>（日常の見守り、全体会での講話など）</p>
図書	読書量増加に向けた取組	<p>充実した調べ学習が行えるように、中高や市の図書館からも図書を借りられるようにした。</p> <p>定期的に「図書室だより」を配布し、読書に対する意識付けを行った。</p> <p>読書記録を用意し、自身の成長も感じら</p>	A	<p>図書委員会を中心に、児童がより便利に図書室を利用するにはどうしたらよいかの検討を行う。</p> <p>図書委員を中心に、読書量が増える企画を実施する（5月末から7月までの長期貸出し前までの期間で、スタンプラリー形式での企画を検討中）。</p> <p>ラウンジに展示している本のラインナップを学校行事や学年での取り組みに合わせて用意し、児童の読書に対する意識を高める。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度の取組方策 (Action)
		<p>れるようにした。</p> <p>長期休業に入る前に推薦図書児童に案内し最大5冊まで借りられるようにした。</p> <p>図書委員会の取り組みとして、読書推進イベント(図書委員が好きな本を昼休みに放送で紹介する)を実施し、学校全体で本を借りる児童が増加した。</p> <p>低学年を中心に、楽しんで読書量が増えるような企画(スタンプラリーで、図書委員手作りのプレゼントをする)を図書委員会が考え実施した(新学期に1年生が図書室利用に慣れることを目的の一つとしている)。</p> <p>図書室前のラウンジには、学校図書館司書が選出した学校行事や季節に合わせた本を子どもたちにわかりやすくポップなどとともに置いた。</p>		<p>「図書だより」の配布を通し、読書に対しての意識付けを継続する。</p> <p>読書記録を継続する。</p> <p>朝日小学生新聞の定期購読を通じて、新聞に触れる機会・世の中の情報を得る機会を増やす。</p>
	読書習慣の育成	<p>1, 2年の国語の授業を週1時間、図書室で読書の時間として実施した。</p> <p>3年生も週1時間、図書室を優先的に使用できる時間を設けた。</p>	A	<p>令和6年度の取組を継続する。</p> <p>図書委員を中心に、図書室のマナーを守り、落ち着いて読書ができる環境作りを行う。</p>
広報	志願者数増加に向けた募集活動	<p>保護者を対象に、学校説明会・個別相談会(年5回)、授業公開・保護者講演会(年4回)を実施し本校の魅力について伝えた。</p> <p>幼児教室への訪問(校長)、幼児教室担当者対象の説明会(4月)を行った。また、幼児教室主催の体験授業にも参加し、本校の魅力を伝えた。</p> <p>小学校連合主催の外部説明会をはじめ、幼児教室主催の説明会(年10回)に参加し、より多くの保護者に知ってもらうよう、チラシの配布・個別相談を実施した。</p> <p>定期的にInstagramとフェイスブックなどのSNSを活用し、説明会などのイベント開催を知らせた。</p>	A	<p>毎年実施している学校説明会・個別相談会、授業公開・保護者講演会に加え、現在在籍している児童の保護者と受験希望保護者との懇親会を実施し、より学校の魅力を知ってもらう機会をつくる(6月)。</p> <p>例年実施している校長の幼児教室訪問に加え、教員で分担し、本校近隣の幼稚園・保育園への訪問、また教員の自宅近くの保育園・幼稚園にも訪問をすることで、より多くの園児保護者に本校を知ってもらう機会を増やす。</p> <p>令和5年同様、小学校連合主催の説明会や幼児教室主催の説明会に参加をし、本校の説明会に足を運んでもらえるよう、アピールをしていく。</p> <p>Instagramやフェイスブックを利用して積極的に発信し、イベントの開催等の広告の充実を図る。</p> <p>近隣幼稚園や、子ども・お年寄りが集まる施設などに学校チラシを置いてもらうように働き掛ける。</p> <p>共働き家庭を含め、多くの家庭に選ばれる学校であるために、アフタースクールの活動の案内を継続して行う。また保護者の負担を減らすため、お弁当業者の選定も行っていく。</p>
	本校の取組を多くの保護者・受験生に知ってもらうための広報活動	<p>より多くの家庭に選ばれる学校であるため、アフタースクールを充実させた。</p> <p>広報部を中心に定期的にInstagramやフェイスブックの更新をするなど、SNSを活用し、イベントの告知だけでなく、学</p>	A	<p>本校ならではの取組を知ってもらうため、日本大生物資源科学部と協力し、園児を対象とした体験イベントを新しく実施する(大学農場でのジャガイモ掘り企画(6月)、校内にお花を植える企画(11月))。</p> <p>この企画については、6年生にも参加をしてもらい、本校の児童の良さを知ってもらう機会とする。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和7年度の取組方策 (Action)
		校の様子について知らせた。 入学後のイメージをもってもらえるように、園児を対象としたオープンスクール(年2回)文化祭作品展示会を実施した。 幼児教室訪問や幼児教室主催の説明会に参加して本校の魅力を伝えた。		運動会に来校してもらい、園児が参加できる競技を取り入れ、本校の活動に参加をしてもらう。 令和6年度は文化祭後に作品だけを見学してもらう「作品展示会」を実施していたが、実際に児童の発表活動の様子を見てもらえるよう、文化祭に来校してもらい、本校の児童の良さを伝えていく。 本校の理解を深めてもらえるように、ホームページの更新を計画的に行う。 説明会において、子どもたちの教育活動が伝わるような作品展示や、動画を使用した学校紹介など、学校の良さを分かりやすく伝えるように工夫する。 外部のコンサルティング会社に依頼し、本校の広報活動についてアドバイスをいただきながら、本校の魅力を効果的に発信できるように取組む。
管理運営	定期的な会議・委員会の実施	職員会議を月2回、各分掌会議、各委員会を定期的実施した。 修学旅行等検討委員会を開き、令和7年度からの修学旅行について検討を行った。	A	職員会議を月2回、各分掌会議、各委員会を適宜実施する。 学習指導委員会を通し、教科の取組(道徳・生活・総合)についてより良い活動にしていけるように検討をする。
	教育環境設備の整備	児童が使用するタブレットPCについてその使用方法とともに検討し、新たに購入することになった。 体育館の空調設備の導入について、令和7年度から着工することになった。	B	多目的室、特別教室のPC環境を整備する。 体育館の空調設備を完備する。
	財政面での取組	生物資源科学部の経理長による本校の財務状況についての説明会を実施した。 外部委託している英語教員の派遣会社、水泳教室について、コストの見直しを含め、見積り合わせを行った。 児童の募集活動を、広報部中心に全教職員で取り組んだ。	A	安定した財政を目指すため、児童募集に向けて広報活動を行う。 (詳細は評価項目「広報」参照)

〔令和6年度の自己点検・評価結果概要〕

令和6年度の重点目標として掲げていた項目のうち、「基礎学力の向上」については、児童一人一人が第一目標を目指して取り組み、進学実現ができた。また、「課外活動の充実」についても、新たに始めた縦割りランチ会、令和5年度から継続している異学年との清掃活動などを通し、高学年が低学年を思いやる姿勢や低学年が高学年を見本として取組姿勢が身についた。各行事で目標をたて、その後の振り返りを行うことで、児童それぞれが目標をたてて行事に取り組むことができ、達成感を得られるものとなっている。これらについては、令和7年度継続した取組を続けていく。

「安全の確保」については、公共交通機関での態度やマナーについて、一般の方からの指摘をいただくことがあった。折に触れて児童には指導をしているが、児童一人一人が自覚を持って適切な行動をすることができるよう、指導を徹底する必要がある。

「児童確保についての広報活動」については全教職員で取り組み、外部説明会においても本校のブースに足を運んでくださる受験生保護者は徐々に増えてきている状況ではあったが、出願状況・入試結果をみると思ったような結果には至らなかった。令和7年度は学校の取組や特色を受験生とその保護者に知ってもらうための体験イベント(芋掘りや体育祭への参加、文化

祭の見学、お花の植え付け) などを取り入れることを計画している。また学校の魅力を広めていく方法を確立するために、外部のコンサルティング会社に依頼し、より効果的な広告の出し方についてアドバイスをいただきながら、児童確保に向け取り組んでいく。

〔令和7年度の重点目標〕

- 1 基礎学力の育成
- 2 課外活動の充実
- 3 中高・大学との連携
- 4 クラス運営力の向上
- 5 学校評価の向上
- 6 児童確保のための募集活動

以 上